

鞆の浦の歴史的港湾遺産調査と埋立架橋計画の凍結

日本大学理工学部	正会員	○福田 隆司
日本大学理工学研究科研究生	正会員	堀川 洋子
日本大学理工学部	正会員	川西 崇行
日本大学理工学部	正会員	伊東 孝

1. はじめに

1983年以来、鞆の浦では埋立架橋計画が問題になっていた(表-1)。提案された計画は、鞆の景観を台無しにしてしまう可能性があった。また鞆に残っている江戸期の港湾施設の価値を認識している人は少なく、計画によりそれらも失われる危機にあった。そのため地域住民の中には架橋に反対する動きもあらわれ、われわれ都市環境計画研究室は、地域住民との共同調査を、1999年度より今年度までおこなってきた。

問題になっていた埋立架橋計画は今年9月に凍結され、一区切りついたことを踏まえて、これまでの調査・活動経過と凍結に至る経緯を概括する。

2. 鞆の浦の概要

広島県福山市鞆の浦は、瀬戸内の中央に位置しており、潮待ち・風待ちの港として栄えた。鞆の浦には、雁木・常夜燈・波止・船番所・焚場といった江戸期の港湾施設が、5点そろって現存している。また、かつての回船問屋や商家が並んだ格子戸と土蔵もそのまま残り港町独特の風情を保っている。このような、中世以来の港と都市が共に現存する地域としては国内唯一であり、大変貴重である。



図-1 埋立架橋計画案¹⁾

3. 各年度の調査・活動概要

研究室では、学術的な調査だけでなく、鞆の浦を知り、鞆の浦の魅力を広く伝えるために多くの活動もおこなってきた。表-2は、各年度ごとの調査・活動概要をまとめたものである。1999～2001年度に、港湾遺産調査を主としておこない、2002～2003年度に、遺産を利活用した地域の魅力の演出、まちづくりに向けた社会的な実験などを試みている。

4. 調査・活動概要の分析

昨年の7月、1999年度から2001年度までの調査内容をまとめた報告書『Mook 鞆』が作成され、鞆の浦の歴史的港湾遺産の評価はひととおり終了した。

昨年の8月、港湾遺産は地域住民主催の“鞆フェスタ”の舞台として利活用され、今年度も、継続が予定されている。また昨年度、「港町ネットワーク・瀬戸内」も、瀬戸内住民によって結成された。

わが国では一般的に、土木遺産の保存・利活用は、遺産評価がまとまり、文化財等に指定された直後から、やっと検討がはじめられることが少なくない。このときいかに地域住民の意見を反映させることができるかが、課題とされている。土木遺産の保存・利活用には地域住民の愛着が大切だからである。

表-1 鞆港埋立架橋計画をめぐる動き²⁾

年	内容・動き
1983	10月 福山県が埋立架橋案を提示(4.6ha)
87	12月 地元漁協の反対などで福山県が88年度の予算化見送る
89	10月 県が埋め立て面積などの見直しを開始
92	12月 市民団体が山側トンネル案を県などに提案
94	2月 地元漁協が同意
95	3月 県が埋め立て縮小を決定(2.3ha)
98	5月 福山県教育委員会が、鞆港の石敷きを「江戸時代の焚場の可能性が高い」と発表
2000	2月 焚場保存のため、県が埋め立て縮小案を決定(2ha)
01	8月 県、市が地元説明会を開催
	10月 世界文化遺産財団(米)が「危機にひんする遺産」に選定
02	12月 知事・市長会談で「03年7月をめどに結論」で合意
03	2月 市長自ら排水権同意の取得に乗り出す
	4月 市が独自の町並み保存事業の予算執行を凍結
	9月 市長が排水権同意の取得を断念

キーワード 鞆の浦 港湾遺産 遺産調査 利活用

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 電話 047-469-5572 FAX047-469-2581

鞆の浦のように遺産評価がまとまると同時に、地域住民主導の保存・利活用計画がはじまっている事例は、貴重と思われる。本章では表 - 2 にもとづき保存・利活用にいたるまでの諸因を考察する。

「港湾遺産」とは、雁木・常夜燈・波止・船番所・焚場等の港湾施設をさし、「港湾景観」と区別した。考察結果は、次のとおりである。

調査は、「遺産調査」「愛着調査」「景観調査」に大別できた。遺産調査は遺産そのものに対する調査、愛着調査とは、遺産や景観等に対する住民の捉え方の調査である。愛着調査は初年度からおこなっている。

遺産調査がおこなわれた港湾遺産や石組みに対して、愛着調査を加えることで、実態や研究成果に対して、住民の観点からの再評価がなされている。

研究室でおこなった調査すべてに対して、住民の協力を得ることができた。地域住民の協力は研究に欠かせなかった。一方住民にとっては見方・ノウハウ等が蓄積でき、その後の自立をうながすと考えられる。

利活用は、2002 年度からはじめられた。研究室が住民主導の利活用を目的として、社会実験的におこなった。このとき住民の協力を得ることで、住民の意

見を抽出でき、一方で住民はノウハウを得たり、自分達の意見を具体的に反映させることができる。社会実験を経ることで、あたらしい保存・利活用案が定着しやすいと考える。

5. まとめ

本稿では、これまでの調査・活動経過と凍結に至る経緯を概括した。

5 年間にわたる調査で、歴史的港湾遺産の詳細や歴史的背景、現状など貴重な結果が数多く得られた。得られた結果は、架橋反対派の理論的根拠となり、新聞等マスコミにもとりあげられ、架橋凍結に、少なからぬ影響を与えた。

また歴史的港湾遺産の保存と利活用調査を、住民と一緒にこなっていたので、凍結が決まると、住民を主体としたまちづくりにつながった。住民のエネルギーはすばまれることなく、次の課題である遺産を生かしたまちづくりへと展開している。

参考文献

- 1) <http://www2.odn.ne.jp/tomonoura/kakyo.html>
- 2) 中国新聞 2003 年 9 月 3 日

表－2 1999～2003年度にかけて、都市環境研究室が鞆の浦でおこなった調査・活動概要

年度	内 容	対象	項目	主体	協力者
1999 (H11)	これまで学術調査がなされていなかった雁木調査をおこなった。切石の個数とサイズを把握し、切石の状態によるランク付け、目地部の状態の分類をおこなった	港湾遺産	遺産調査	研究室	住民
	港湾遺産に対する住民の位置づけのアンケート調査をおこなった。住民は、常夜燈・雁木・波止・焚場の順に位置づけ、「誇りに思う」より、「愛着を持つ」の回答が多かった	港湾遺産	愛着調査	研究室	住民
2000 (H12)	焚場の小規模な発掘調査をおこなった。「焚場遺構」の範囲を正確に確認することはできなかったが、周辺住民へのヒアリングにより、「焚場領域」をとらえることができた	港湾遺産	遺産調査	研究室	住民
	鞆の浦は瀬戸内を代表する景観と評価されているが、定量的にとらえるとうどうなるか、鞆の浦の景観構成を視距離・俯角から景観分析をおこなった	港湾景観	景観調査	研究室	住民
	全国でも珍しい自然の円形港湾であり、近世の港湾施設や江戸時代の町屋の残る「鞆の浦」は世界遺産としての価値をもつ。登録を呼びかける福山駅前の街頭署名に参加した	港湾遺産 鞆町並み	保存運動	住民	研究室
2001 (H13)	古くからの石組みが残る波止の石組み調査をおこなうため、斜め壁面図面化手法を考察して、各時代による石組みの違いを判別した。あわせて名工(石工)の知恵をみつけた。また古図面分析により港の変容も確認した	港湾遺産	遺産調査	研究室	住民
	陸からのウォーターフロント景観および海からのアプローチ景観の調査を実施した。また中世の朝鮮通信使の航路を調べて、朝鮮通信使がみたであろう景色を確認した	港湾景観	景観調査	研究室	住民
	「鞆の魅力発見」をテーマにワークショップを開催し、石組みのディテールスケッチをおこなった。住民の石造構造物に対する意識を探ることができた	港湾遺産	愛着調査	研究室	住民
2002 (H14)	鞆の浦から愛媛県松山港まで船をチャーターし、衰退している現代の海上交通を復活するため、港町ネットワークを再現して、地域の人たちと交流をおこなった	港町ネットワーク	利活用	研究室	住民
	上記の航海中にアンケートによる多島海景観の分析をおこなった。アンケートは船上で実施した。各港の入港・出港時に住民が何をランドマークにするか等の分析をおこなった	多島海景観	愛着調査	研究室	住民
	鞆の浦で全国町並みゼミが開催され(9月)、「港町ネットワーク」を主題にネットワークをつくる意義や問題点、今後の課題などについて研究者や瀬戸内の行政・住民らで議論された	港町ネットワーク	討論	住民	研究室
	「ライトアップでメイクアップ」というテーマで、歴史的港湾遺産の夜間景観を演出した。常夜燈は外部からも照らし、雁木・波止に空き缶ランタンを配置した。港湾の円景がきわだった	港湾景観 港湾遺産	利活用	研究室	住民
2003 (H15)	5月、6月、8月に多島海の眺望的・機能的側面について実地調査をおこなった。写真撮影・GPSを5分おき、または3分おきにとっていた。『名所絵図』(古絵図)収集もおこなう	多島海景観	景観調査	研究室	住民
	瀬戸内海の島々や港町との交流を通して、瀬戸内海を一つの文化圏と捉えた意識を育み、世界に通ずるスタンダードなまちづくりをめざし、「港町ネットワーク・瀬戸内」が発足した	港町ネットワーク	利活用	住民	研究室
	8月、鞆港を舞台に地元の「NPO法人 鞆まちづくり工房」主催の「鞆フェスタ2003」が開催された。ランタン作りワークショップ・音楽祭・鞆港ライトアップ・映画上映会等が催された	港湾景観 港湾遺産	利活用	住民	研究室

*「研究室」は、都市環境計画研究室の略